

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



全国へき地教育研究連盟と 連携協定を締結しました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター



4月16日(金)、本学は、全国へき地教育研究連盟との連携に関する協定を締結しました。本協定は、両者が連携協力し、へき地・小規模校教育に関する諸課題に的確に対応することを目的としています。

調印式では、はじめに、玉井康之副学長から協定書の概要が説明され、その後、蛇穴治夫学長、柿崎秀顕会長が協定書に署名しました。蛇穴学長は、「へき地校体験実習を経験した学生は教員志望が高まることから、学生の実習の場を拡充したい。併せて、これまでの研究を生かし、全国のへき地教育研究の発展につなげたい」と語りました。

また、柿崎会長は、「大学が蓄積してきた教育・研究をへき地・小規模校教育の現場で生かせるよう協力をしていきたい」と語りました。

調印式の後、協定締結記念セミナー「へき地・小規模校教育の未来と教員養成大学の役割」を開催し、今後の教育・研究の推進について意見交換しました。

協定調印式の様子はNHK北海道の取材を受けました。記事はNHK NEWS WEBに掲載されていますので、下記URL又はQRコードよりご参照ください。

※NHK NEWS WEB記事「北海道教育大学 「小規模校」 団体と連携へ 協定調印式」
<https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20210416/7000033024.html>





北海道教育大学と全国へき地教育研究連盟との連携に関する協定書（概要）

本学と全国へき地教育研究連盟（以下「両者」という。）は、へき地・小規模校教育に関する諸課題に的確に対応するため、協定を締結する。

第1条 両者は、次に掲げる事項について連携協力する。

- (1) へき地・小規模校教育の振興に関すること
- (2) へき地・小規模校教育研究の充実に関すること
- (3) へき地・小規模校の教員の資質向上に関すること
- (4) へき地の地域教育の振興に関すること
- (5) へき地の教員養成に関すること
- (6) 人的な交流に関すること
- (7) その他両者が必要と認めること

第2条 この協定による協力の形式、成果の利用条件等、協力事項の細目については、両者が協議してその都度定める。

第3条 この協定の有効期間は、協定締結の日が発効し、1年間に限り有効とする。ただし、両者のいずれからも異議の申出がないときは、1年ごとに自動的に更新される。

全国のネットワークづくりとハブ的な使命を高めるために

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター長 玉井 康之

[求められる全国での役割]

北海道教育大学は、平成30年度に新たにへき地・小規模校教育研究センター（以下、へき研センター）を再編し、学内の組織基盤と全国のネットワークづくりを強化してきました。それ以来、へき研センターは全国に果たす役割を強めてきました。平成20年頃から全国の大学・都府県教育委員会からは、研究成果の普及や研修依頼など、へき研センターに期待する声が高まってきました。この背景は、全国的な少子化・小規模校化とそれに対応する新たな方法が全国的に求められるようになったからです。



玉井康之センター長

[全国の大学のネットワーク]

こうした期待に応えるために、令和元年度には「日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門」を設立し、また令和2年度には私立大学を中心に「全国大学へき・小規模校教育研究会」を設立しました。これにより、国公立大学のあらゆる大学関係者のネットワークを創りました。令和3年度からは、全国の研究者の共同研究員制度も設けました。これらを基盤にして研修事業やプロジェクト研究を共同で発信する事業を強化してきています。

[全国の学校とのネットワーク]

また、全国の学校現場との関係を強化するために、令和3年度に「全国へき地教育研究連盟」と北海道教育大学が連携協定を締結しました。これにより、全国の大学と全国のへき地校を結び、各地域において、へき地教育を活性化し、その先進的な教訓を普及していくことがいっそう容易になりました。へき研センターは、この全国の大学と学校現場のハブ的な役割を果たしていきたいと考えています。

[へき地のICT教育開発]

へき地・小規模校では、ICTを活用した遠隔双方校教育や自立的な複式教育・個別最適化教育なども進められており、それらを全国的に調査するICTプロジェクト研究も進めて来ました。これらのプロジェクト研究の成果は、新しいGIGAスクール時代の方法を開発するものとして、全国の教育委員会や学校からも歓迎されています。

[へき地教育の国際的役割]

さらに国際的にも、へき研センターは、開発途上国の教育を支援するものとして近年急速に注目されています。日本のへき地教育の水準は高く、開発途上国からは、JICA等を通じてその方法を導入したいという期待が高まっています。

[日本の唯一の専門施設]

へき研センターは日本で唯一のへき地・小規模校の専門的研究施設です。国内でへき地・小規模校教育を学ぶためには、必然的にへき研センターに依頼が来ます。全国的な少子化・小規模校化の中で、新たな教育のあり方が模索されている時代であるからこそ、全国の研究者や学校現場教員がネットワークを結び、それぞれの研究成果を交流していく必要があると考えています。

今後ともへき研センターは、全国のネットワークづくりのハブ的な役割を果たしていくことが、専門施設としての使命であると考えています。そのためには、北海道教育大学の教職員だけでなく、全国の大学・学校のご支援・ご協力が不可欠です。皆様方にはこれまでと変わらぬご支援を御願ひできれば幸いです。

キャンパス間へき地校体験実習成果交流会

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

令和3年3月9日（火）、本学へき地・小規模校教育研究センター主催で、キャンパス間へき地校体験実習成果交流会を開催しました。本交流会は、へき地校体験実習に参加した学生による成果報告を通して、小規模校における教育活動や地域社会の発展に貢献できる教員の資質について考える契機とすることを目的として催しました。当日は、へき地・小規模校教育研究センターの越川センター員（釧路校）が司会を務め、Zoomを利用したウェビナー形式で行われ、へき地・小規模校教育研究センター関係者ならびに発表学生、そして複数の実習受入校の教員等約50名が参加しました。

開会にあたり、玉井へき地・小規模校教育研究センター長より挨拶があった後、実習校毎に参加学生の成果報告を行いました。

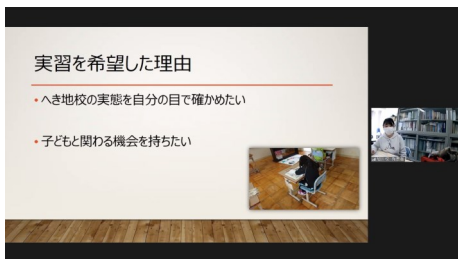
【発表校一覧】

○令和元年度実施分

- ・幌加内町立幌加内小学校（札幌校）
- ・中富良野町立西中小学校（旭川校）
- ・弟子屈町立美留和小学校（釧路校）

○令和2年度実施分

- ・中富良野町立宇文小学校（旭川校）
- ・幕別町立糠内小学校（釧路校）
- ・初山別村立初山別小学校（札幌校）



参加学生は各自で作成したスライドを用いて、実習参加の動機、実習校の様子、実習の体験また実習で感じた課題等の報告を行い、へき地校体験実習の成果やこれからの大学生活での展望を語ってくれました。

学生の成果報告終了後は、へき地・小規模校教育研究センターの小松センター員（函館校）及び前田センター員（札幌校）から講評を行い、教職を目指す学生にとって貴重な機会となりました。最後に、川前へき地・小規模校教育研究センター副センター長より終了の挨拶を行い、交流会は盛会のうちに終了しました。

交流会に参加した釧路校2年生の後藤芽唯さんから、「実習に参加してからこの交流会まで半年の期間があり、自分にとって実習を反芻する良い機会となりました。他キャンパスや他学年の学生の報告を聞くことで、地域性の違いや主免実習への心構えという点でとても参考になりました。函館校の小松一保先生の講評で『自分が実習に行った後の児童・生徒の姿を想像して欲しい』という発言がとても印象的で、この交流会の経験を大学での学びに活かしたいと思います」と感想をいただきました。